

飛び込んだ脚本の世界 作り手の喜び



みの〜れ住民劇団 演劇ファミリーMyu

ほん だ ひ な
本田妃奈 さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.197

柔らかな日差しに春の訪れを感じるこの頃、小鳥のさえずりも少しずつにぎやかになってきました。ふきのとうは春一番に地上に顔をだす春の使者と言われ、カルシウムやカリウムが豊富で免疫力も高めるそうです。今回は、みの〜れ住民劇団「演劇ファミリーMyu」のメンバーとして活動する小美玉市美野里地区にお住まいの高校生、本田妃奈さんを紹介します。

幼少期の環境 両親に感謝

本田さんがMyuに出会ったのは小学6年生のとき。

「第1回全国ヨーグルトサミットin小美玉」の一環で企画された「ヨーグルトミュージカル」に出演しませんか?というチラシに惹かれて入団しました。初めての稽古日と初めての本番の舞台はドキドキしたという本田さん。「観に来てくれた家族や友達から良かったと言ってもらったのが嬉しかった」と笑顔で話してくれました。

これまで3作に出演し、昨年はピンスポット操作、今年には音響操作を経験。そして今年10月上演予定のオリジナルミュージカル「わたしとおばけのケーキ屋さん」では脚本チームの一員として半年かけて書き上げました。「20歳前後のメンバーは

SNS発信で、同世代は振付助手で、それぞれMyuに貢献していて、私はどんなことで役に立てるだろうと考えていたとき、今作の脚本チームを座内で募集すると呼びかけがあり『これだ!』と思つて手を挙げました」。

飛び込んだ脚本チームでストーリー展開の作り方やセリフの書き方を学び、メンバーがそれぞれが考えてきた内容を持ち寄ってはすり合わせ、修正を続けた半年間。「脚本チーム4人で構想したストーリーが繋がって、セリフに想いを込め、歌をイメージして歌詞を書き、脚本が完成したときの感動が忘れられません。作り手側の楽しさを知りました」。特に冒頭のシーンでおばけの王様が語っているセリフが特に思い入れがある、とにっこり。

Myu新作オリジナルミュージカル「わたしとおば

けのケーキ屋さん」は、人間とおばけの出会いと衝突が2つの世界を変えていく、愛と友情の異世界ファンタジー。「たくさんの人たちに公演を観てもらえたら、作り手側としてとても嬉しいです」と本田さん。

「鳥のヒナのように大きくなったら羽ばたいていけるよ」と両親が妃奈(ひな)と名付けたそうです。「小さい頃からたくさん本を読んでいたことが、今回脚本チームでセリフを書くときにとても役に立ちました。親に感謝しています」と話します。「Myuに入るのも大きな挑戦でした。もつといろんなことに挑戦しようと思えたのはMyuのおかげ。また脚本チームに入って次の作品も生み出したいです」と抱負を語ってくれました。本田さんも生み出す作品を、これからも楽しみにしています。

(藤田佐知子)